

9月の学級づくり【中学校版】

9月は、文化祭や音楽会等に向けて、学習の成果を発表する準備を学級で進めることが多くなります。その準備に生徒が主体的に取り組めるようにするために、目標、役割、分担、計画が大事です。また、夏休み明けに欠席が増える生徒がいます。未然防止をしていく必要があります。



文化祭で学級・学年の絆をより強く！

一人一人の役割をはっきりさせて他人事にならないようにするとともに、生徒相互のつながりを深める工夫を活動の中に取り入れて、達成の喜びを共有し味わう場面をつくりましょう。

仕上げはグループで

- ・一人一人の役割は明確に分担するが、仕上げはグループで行う活動にする。例えば、学級旗づくりでは、構想・下書きの分担はしても、色塗りはグループ全員で行う。「できた！」ときの嬉しさを共有できる。

つながりを深められる目標に

- ・大縄とびや全員リレーなどのクラス対抗競技では、級友との「協力」「支え合い」の視点を入れた目標になるように、一言アドバイスする。「縄を回してくれている 君が楽になるように、みんなとタイミングを合わせる！」などの目標ならば、練習を通して心の支え合いが深まる。

学級合唱を大切にするのは、なぜ？

「合唱に力を入れている」という担任の先生がたくさんいます。なぜでしょう？

過程があってこそその感動

学級合唱コンクールの感動は、その日を迎えるまでの学級のドラマから生まれます。

歌える学級に...

「歌える学級にしたい」と聞くことがあります。「歌える学級」とは、人間関係が良好、自己表出ができる、互いの違いを認め合える等々。

逆に考えると...

「合唱に力を入れる」ということは、「合唱だけに力を入れる」ことではありません。合唱する姿から見えた学級の課題を、合唱する場面だけで何とかしようとするのではなく、清掃や係活動、教室環境等の課題にも目を向けて、学級集団を高めるチャンスととらえましょう。

絆づくりのための居場所づくり

新たに不登校になる生徒の欠席が目立ち始めるのは夏休み明けともいわれます。もう一度、「居場所」、「生きがい」、「存在感」を念頭に置いた生徒とのかかわりをしてみましょう。

「終わらなかつた夏休みの宿題をする時間と場所を設ける」ことで勉強の不安を取り除く。

「学校生活の中でよい面や小さな成長を見つけて認める」ことで自己存在感を感じさせる。

「特別活動や部活動で自分たちが考えて活動し、互いのよさに気付く場面をつくる」ことで生徒同士や教師との共感的人間関係を育む。

「学級や学校行事の中で自ら決めて行動する場面をつくる」ことで主体的に活動するための自己決定の場をつくる。

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

「指示のとおり動くことが難しい生徒」

指示を聞きとることが苦手ですか？

子どもに近寄り、アイコンタクトをとって注意を引く、名前を呼んで注意を向けたことを確認してから話し始めてみては。

聞いた内容を理解することが困難ですか？

指示や話の内容を板書する、関係する絵や写真を示すなど、視覚的に確認できるようにしてみては。

指示内容を覚えていることが苦手ですか？

指示を出した後に、行動できているかどうかを確認してから次の指示を出す、また、指示内容を順をおって箇条書きにしてみても。